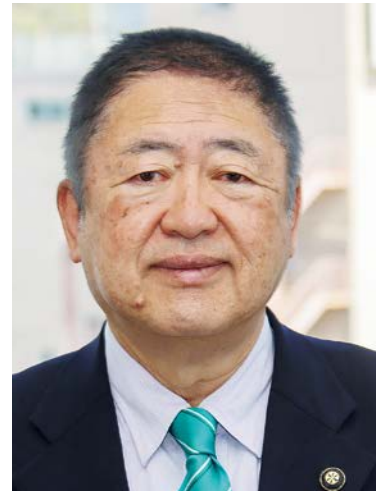


新市20周年を迎えて

平成17年6月6日、旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併し、新しい宮古市が誕生してから、今年で20周年を迎えます。宮古市と旧川井村が、平成22年1月1日に合併してから、15周年という節目の年でもあります。

これら2度の合併を経て、宮古市は、先人より受け継いだ、多彩な歴史や文化など数多くの財産と、豊かな自然環境を最大限に生かしたまちづくりに取り組んでまいりました。

合併から今日までの道のりは、決して、順風満帆なものではありませんでした。平成23年3月の東日本大震災、その復興途上で起きた、平成28年の台風10号災害、令和元年の台風19号災害、そして、新型コロナウイルス感染症への対応。宮古市は幾度となく、大きな壁に直面してきました。しかし、宮古市には、過去に何度も大きな災害による壊滅的な被害を受けながらも、その都度、再建・復興を遂げてきた歴史があります。



宮古市長
山本 正徳

この20年で迎えた難局も、宮古市民「グンチーム」となつて、乗り越えてまいりました。

災害の記録や記憶を風化させることなく、次代に伝える施設として、6月6日に、宮古市災害資料伝承館を開館いたします。これまでの経験と教訓を、未来への「糧」として、引き続き災害記憶の伝承と、災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

現在、地方自治体の多くは、人口減少を要因とした経済の縮小やコミュニティの衰退など、厳しい現実に向直しています。

誰もが住み続けたい「持続可能なまち」を実現するために、本市にあふれる多くの魅力的な資源を掘り起こすとともに、郷土の誇る強みを見つめなおし、新たな価値とともに発展させ、未来へつなげていく必要があります。

市の将来像として掲げる『「森・川・海」とひとが調和し共生する安らぎのまち』を目指し、これからも市民みんなで、歩みを進めてまいりましょう。



安倍晋三首相に震災からの復旧状況を説明する山本市長（平成25年4月6日）



市町村合併住民懇談会
（写真左が北村さん）



市町村合併の知事への申請
（写真上中央が北村さん）

新宮古市誕生20周年おめでとうございます。合併に至るまでを思い返すと本当に色々な出来事がありましたが、この地域を共に次世代に引き継いでいかなければならないという3市町村の首長、議会議員、職員、そしてなによりも住民の皆さんの危機感と使命感が最後のひと押しになったと思います。

旧宮古市助役の故西野祐司さん、旧田老町総務企画課長の故吉水誠さん、旧新里村総務課長の山口公正さんには今でも感謝の気持ちしかありません。八重樫浩文さん（現北上市長）、小野博さん（現岩手県政策企画部長）の企画力なくして新市のデザインは描けませんでした。

現在、宮古市のみならず日本全体が当時の予想をはるかに上回る厳しい状況に直面していますが、宮古市の安寧と発展を心から祈念し、微力ですが引き続き応援して参ります。

宮古市・田老町・新里村
合併協議会で事務局長を務めた



北村 朋生さん

総務省政治資金適正化委員会
事務局長

合併から20年、今思う事



初代宮古市長
熊坂 義裕さん

現宮古市は、平成17年6月6日に旧宮古市・田老町・新里村が新設（対等）合併し、続いて平成22年1月1日に、旧川井村が編入合併して誕生しました。この2つの合併は、国の大号令の下に進められたいわゆる「平成の大合併」の、前者が合併旧法（合併特例法）、後者が合併新法における岩手県第一号の合併でした。

合併により、面積1259平方キロメートル（全国1741市区町村中11位、岩手県1位）、三陸復興国立公園と早池峰国立公園を有し、広大な自然と人情豊かな宮古市が誕生しました。

厳しい財政事情の中で行政サービスを維持していくには、市町村合併が有効な行政改革の一つであることは論を待ちません。しかしながら合併は、住民の暮らしや地域の将来に深く関わることから住民の意思決定を基本に置かなければならないことは当然であり、「合併するなら住民自治の息づく自治体を作る」ことが強く求められます。



初登庁する熊坂初代宮古市長
（平成17年7月4日）

私はこの理念の下で、当時の宮古市長としてそれぞれの町村長に合併の提案をしましたが、成立するまでには実に多くの紆余曲折があり、今思えばよく合併できたものだ感慨深い気持ちになります。住民の皆さんのご理解、関係者の多大な苦勞なくしては到底成し遂げることはできませんでした。もう一度やれと言われても同じことはとてもできないと感じています。

合併の検証は今後も続けて行かなければなりません。東日本大震災では、川井・新里地区に被害が及ばなかったことや合併の事業で整備した新里学校給食センター等が功を奏し、復興は比較的早く進みました。しかしながら、岩手県沿岸の全ての市町村と同様に、宮古市も人口減（合併時約6万人が現在は約4万5千人）や産業の衰退が深刻です。

住民自治の理想を掲げて合併した宮古市に、現在、市民の皆さんはどのような感慨をお持ちでしょうか。一市民として私も行く末を見守っていきたいと思っています。

市町村合併20周年を記念して 花火を打ち上げます

浄土ヶ浜エターナルグリーンを用いた花火や、市の鳥であるウミネコなどをモチーフにした花火が宮古の夜空を彩ります。

日 6月6日（金）午後8時～8時20分
（約700発打ち上げ）

場 出崎ふ頭周辺

問 市企画課次世代交流推進室（☎77-5021）



平成17年6月6日
の宮古市開庁式で
くす玉割りをした

伊藤 澪史さん
（西ヶ丘）

くす玉が割れたときに出てきた風船を大事に持って帰ったことを覚えています。

高校卒業後、マグロ漁船に3年乗っていましたが、今は宮古に帰ってきました。



写真右が伊藤さん